

令和5年度「法曹という仕事」



今年は会場とオンラインのハイブリッド開催!!

「法曹という仕事」は、令和元年から最高裁判所、法務省、日本弁護士連合会の法曹三者による共催イベントとして（※令和5年度からは、最高検察庁も共催）、毎年夏休み期間中の8月頃に開催している広報イベントです。

第4回目となる令和5年度は、初めて最高裁判所での会場参加（定員100名）とオンライン参加（定員250名）のハイブリッド形式で開催しました。

このイベントは、これから将来の進路を検討する高校生を中心とした参加者に対して、最高裁判所判事から、法曹という仕事の重要性や魅力をお伝えし、NHK Eテレ普話法廷の裁判内容を法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）が解説するなどして、社会における「法律家」の役割等を知ってもらう企画です。

クリック

「法曹という仕事」開催結果



法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）が、社会における法律家の役割、仕事のやりがいをお伝えします。



法曹という仕事

令和5年 8月16日（水）13時30分

参加方法：①会場参加（最高裁判所）

②オンライン参加（Zoom）

対象：高校生

定員：①100名、②250名（いずれも申込先着順）

申込：メールで申込み（定員に達し次第、受付終了）

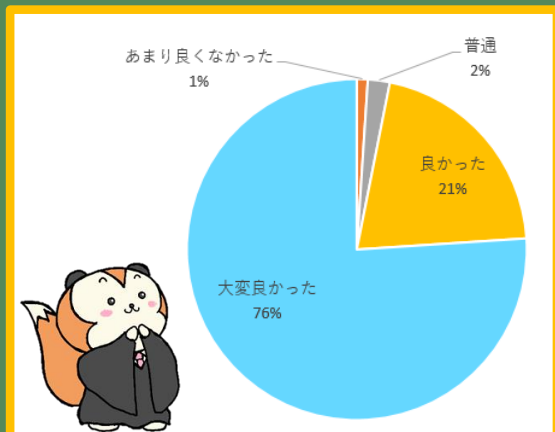
共催：最高裁判所、法務省・最高検察庁、日本弁護士連合会

イベントの詳細内容、申込方法は、こちらに掲載予定
https://www.courts.go.jp/saikosai/about/saikousaikouhou/R5_housou/index.html



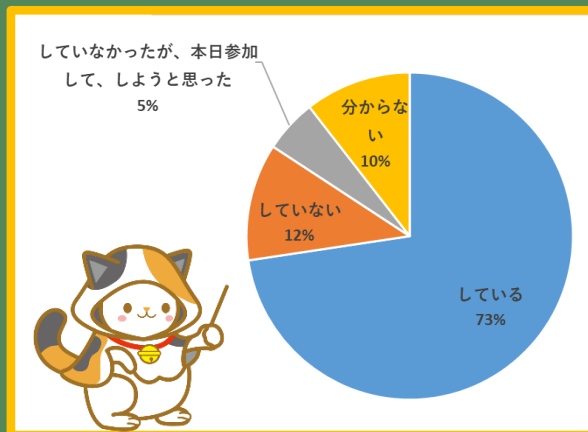
令和5年度「法曹という仕事」の参加者アンケート

1. 「法曹という仕事」企画全体について



「法曹という仕事」のイベントに参加した人のうち、
「良かった」及び「大変良かった」は **97%**

2. 法曹を進路の一つとしていますか。



参加者のうち法曹を進路の一つとして考えている人は **73%**

第1部 岡正晶最高裁判事の講話

岡判事は、「法曹三者の仕事は、どれも資格取得者のみができる**プロフェッショナル**な仕事であり、高い倫理観・使命感が求められる厳しい仕事ですが、社会の安全・安心・安定を支えているとても重要な仕事であり、達成感、やりがいを感じられる、よい仕事の1つです。」

「**プロフェッショナル**で職人的な仕事に関心・興味のある方は、この法曹という仕事を、ぜひ前向きに検討していただければ嬉しいです。」と、語りました。



最高裁判事 岡 正晶

第2部 共同企画「昔話法廷」

共同企画は、NHK Eテレ昔話法廷「**三匹のこぶた**」動画を再生し、被告人を追及する🌻**検察官**、被告人を弁護する👤**弁護人**、裁判の進行を指揮し、判断する👤**裁判官**がそれぞれ異なる立場から、鋭い視点で副音声的に「**真剣に**」分析・解説する企画です。

質疑応答タイムでは、オンライン参加者から「被告人のトニー郎に正当防衛が認められない場合は、情状酌量は認められますか。」等の質疑がされ、法曹三者が分かりやすい言葉で丁寧に回答していたのが印象的でした。



最高裁判所講堂の大型スクリーンで裁判動画を再生し、法曹三者が解説する様子

第3部 個別企画「法曹三者PR」

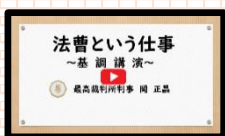
個別企画では、「裁判官」、「検察官」、「弁護士」がリレー方式により、それぞれの職種の「仕事の魅力」、「仕事のやりがい」、「チームで仕事していること」等について、具体的な体験を元に語りました。

👤**弁護士チーム**の「学生時代のアルバイトや部活の経験は、弁護士になってからも役立つ」、🌻**検察官チーム**の「熱い心を持ちながらも、証拠をきちんと分析できる冷静な頭も同時に必要」、👤**裁判官チーム**の「裁判官は孤独に判断しているのではなく、チームで仕事をしている。」という言葉が印象的でした。



法曹三者のPRを興味津々に聴く参加者の様子

◆ イベント企画動画リンク集 ◆



第1部動画
基調講演



第2部動画
共同企画



第3部動画
個別企画

<参加者の声>

- 法曹三者の仕事は、社会を安定、安心させる重要な仕事だと思いました。
- 普段勉強しないことが学べていい機会になりました。



令和6年度は「法曹という仕事」イベントを**令和6年8月16日(金)**に開催予定です!!